

工事設備

施

書

<https://www.sekouya.com>

日

日

社

現場代理人	
監理技術者	

1) 総則

a. 適用範囲

- ・この施工計画書は、**電気設備工事**の施工に適用する。

b. 関係者への周知

- ・この施工計画書は、工事着手前に関係者に周知徹底を図り、品質の確保に努める。

c. 適用図書及び参考図書

- ・総合施工計画書による。

2) 工事管理

a. 施工内容

- (1) 建物内のコンクリート埋込み配管及び露出配管工事

b. 工事計画

- (1) 施工図作成・提出・承諾

- ・施工図一覧表による。

なお、施工図の提出には提出日を記載して添付する。

- (2) 施工時期

- ・週間工程表による。週間工程表は、工事着手前会議で提出する。

c. 監理者の施工の立会い時期

- ・金属管、PF管工事：工事着手前
・コンクリート埋込み配管工事：工事着手前

3) 現場の組織

- ・総合施工計画書による。

<https://www.sekouya.com>

4) 機材

a. 使用機材

(1) 機材及び製造者名

・合成樹脂製可とう電線管（PF管）	(株) 製造
同附属品（カップリング、コネクタ、コンビネーションカップリング）	(株) 製造
エンドカバー	(株) 製造
合成樹脂製ボックス、	(株) 製造
・鋼製電線管（ねじなし）	(株) 製造
同附属品（ノーマルカップリング、コネクタ）	(株) 製造
電線管用金属製ボックス	(株) 製造
・金属製可とう電線管	(株) 製造
同附属品（コネクタ、リング）	(株) 製造
・プルボックス 鋼板製	(株) 製造
合成樹脂製	(株) 製造

(2) 機材の識別方法

- ・製品及び包装の表示に。

(3) 保管方法

- ・鋼製電線管は、資材置き場に保管する。
- ・合成樹脂製可とう電線管は、資材置き場の小屋内に保管する。

b. 機材の検査

- (1) 機材の搬入ごとに、受入を行う。

- (2) その後、監督職員に機材

保管し、ビニルシートで養生する。

は、資材置き場の小屋内に保管する。

、新品の確認、外観確認、数量確認)を

検査を受ける。

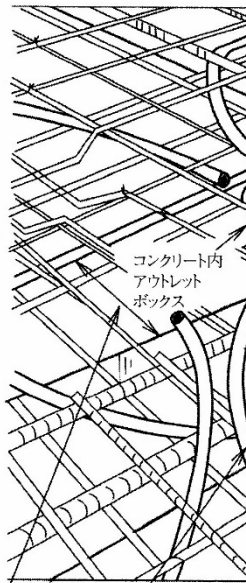
<https://www.sekouya.com>

5) 施工要領

a. コンクリート埋設配管 (PF管)

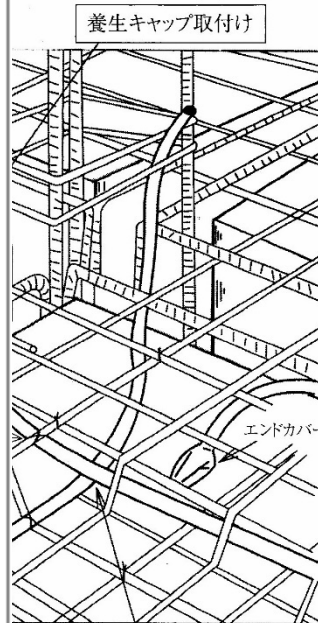
(1) 管の敷設

- ・配管は、PF管及び同附属品を使用する。
- ・ボックス付近を除き、平行する配筋との離隔及び配管相互の離隔は、30mm以上とする。
- ・梁に平行の配管は、梁面より100mm以上離す。
- ・管の支持間隔は、パイプ径の6倍以下とする。



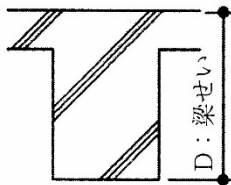
梁から 100 mm 以上離す

パイプ曲げ部は、管内径の6倍とする



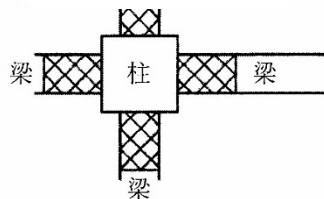
上筋と下筋の重なり部よりずらす

- ・壁付でない梁の柱付近の配管は、柱径より制限する。



梁断面

- ・壁付でない梁の横断配管を避ける部分 (ただし、梁によってDは異なる。)



壁付でない梁の横断配管を避ける部分 (ただし、梁によってDは異なる。)

<https://www.sekouya.com>

(2) 管及び合成樹脂ボックスの接続

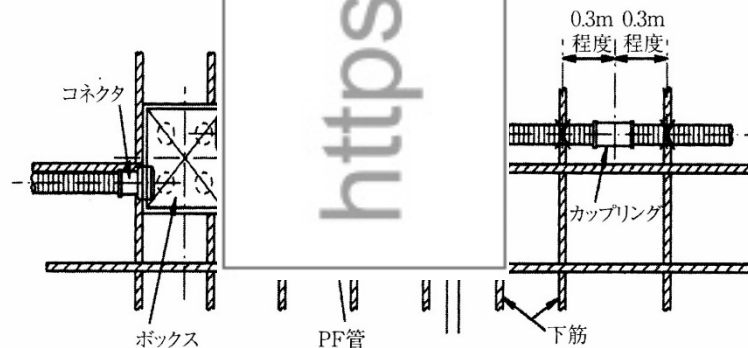
- ・ボックスの使用区分は、次による。

隠ぺい配管の位置ボックス及びジョイントボックスの使用区分

取付位置		配管状況	ボックスの種別
天井スラブ内		(16)の配 (22)の配	形四角コンクリートボックス 又は八角コンクリートボック 75
		(16)の配 配管4本	形四角コンクリートボックス 又は八角コンクリートボック 75
天井 スラ ブ以 外 (床 を含 む)	スイ ッチ 用 位 置 ボ ッ ク ス	連用スイ	個用スイッチボックス又は中形 角アウトレットボックス 44
		連用スイ	個用スイッチボックス又は中形 角アウトレットボックス 44
		連用スイ	個用スイッチボックス
	照 明 器 具 用 、 コ ン セ ン ト 用 位 置 ボ ッ ク ス 等	(16)の配 (22)の配	形四角アウトレットボックス
		(16)の配 配管4本	形四角アウトレットボックス
	28の配	形四角アウトレットボックス	

- ・ボックスと管の接続は、
- ・管の接続は、カップリン
- ・ボックスと管及び管相

程度の位置に支持する。



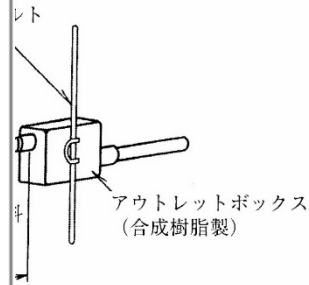
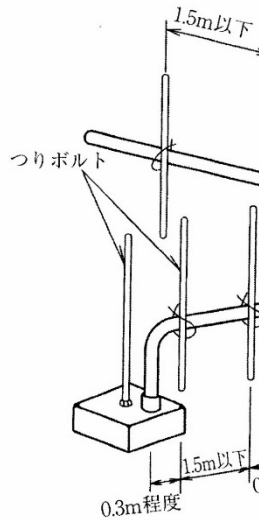
(3) 養生

- ・上向き配管は、端部に養生キャップを取付け、テープ巻きを行う。
- ・スラブ面から露出する屈曲部は、管立上げ支持鉄線（○ ○製）を用いる。

b . 天井内隠ぺい配管、軽量間仕切内配管

(1) 管の敷設

- ・配管はP F 管及び同附属品を使用する。
- ・管は、P F 管支持材（**製**）を用いて、1.5m 以下の間隔で支持する。
- ・ボックス付近は、0.3m 程度で支持する。
- ・ボックスとボックス間か 1m 程度の場合は、その中央の 1 点支持とする。



使用するパイプクリップの図が添付されている図（施工要領書）を参照してください。

図が必要な場合は、製品に施工要領書等の貼付）する。

(2) 管及び合成樹脂ボックス

- ・管及び合成樹脂ボックスの取付は、施工要領書及び合成樹脂ボックスの取付図を参照してください。

ボックスの使用区分は、本章「a .(2) 管」を参照してください。

c . 露出配管（鋼製電線管（ねじり管））

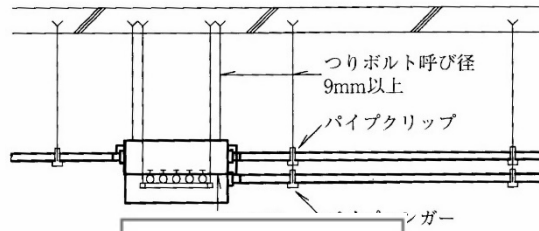
(1) 管の敷設、プルボックス

- ・配管は鋼製電線管（ねじり管）を使用する。
- ・管は、パイプハンガーを用いて支持する。
- ・パイプハンガーは、構造体に取付け、径 9mm を取付け、これに固定する。
- ・ボックス付近は、0.5m 程度で支持する。
- ・管の接続は、ねじなし継手とする。
- ・プルボックスは、構造体に吊りボルト呼び径 9mm を取付け、次の方法で固定する。

使用する。

径 9mm を取付け、これに固定する。

支持は 4 点とするが、長辺が 300mm 以下は 2 点、200mm 以下は 1 点とする。吊りボルトに平座金とナットを用いて取付け、ねじ山を 3 つ程度残す。



使用するパイプクリップは、製品に添付されている図（施工手順書）を参照してください。

必要に応じて、製品に添付されている図（施工手順書）を参照してください。

(2) 管及びボックスの接続
・露出配管の位置ボックス

ボックスの使用区分は次による。

用途	ボックスの種別
照明器具用等の位置ボックス及びジョイントボックス	管 4 本以下 丸形露出ボックス(直径 89mm)
	管 4 本以下 丸形露出ボックス(直径 100mm)
スイッチ用及びコンセント用位置ボックス	コンセント 露出 1 個用スイッチボックス
	コンセント 露出 2 個用スイッチボックス
	連用スイッチ又は連用コンセント 露出 3 個用スイッチボックス

備考 連用スイッチ及び連用コンセントには、連用形のパイロットランプ、接地端子、リモコンスイッチ等を含む。

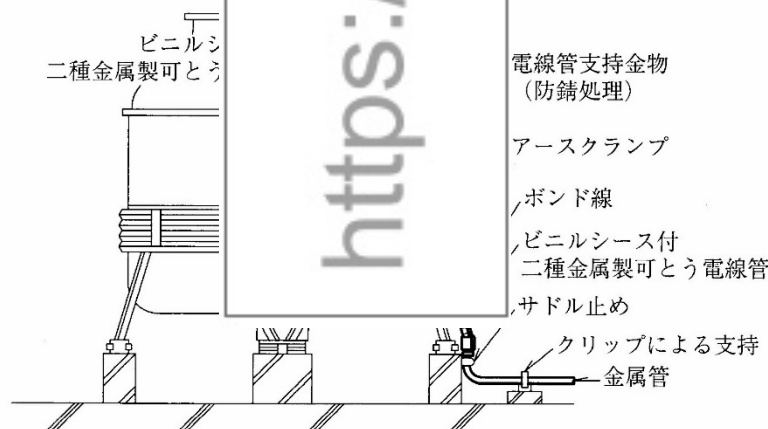
- ・管とボックスとの接続は、ねじなしコネクタを使用する。
- ・管とボックス間は、次の定格電流区分により軟銅線（裸線）のボンディングを施す（本章「c.(1) 管の敷設、プルボックスの取付け」の図を参照）。

配線用遮断器等の定格電流 [A]	ボンド線の太さ
1	2.0mm 以上
2	5.5mm ² 以上
6	14mm ² 以上

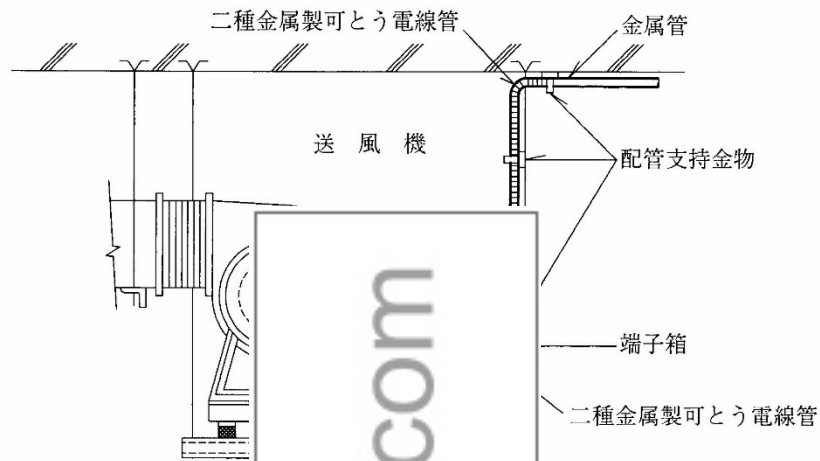
d. 露出配管（金属製可とう電線管）
 (1) 管の敷設、ボックスとの

- ・配管は金属製可とう電線管を使用する。
- ・使用する場所は、電動機、送風機、照明器具、電線管の敷設場所、屋外及び水等を搬送する場所、配管が腐食する場所、金属管（ねじなし）との接続は、ねじなしコネクタを使用する。
- ・管は 1m 未満とし、支持物から 0.3m 程度とする。（送風機等の図を参照）は除く。
- ・金属管を支持する方法は、支持物にクリップを使用する。なお、支持が困難な場合は、支持物にサドル止めを使用する。
- ・ボックスとの接続は、金属製可とう管用のねじなしコネクタ（可とう管用、ビニル被覆可とう管用）を使用する。

- ・使用する場所は、電動機、送風機、照明器具、電線管の敷設場所、屋外及び水等を搬送する場所、配管が腐食する場所、金属管（ねじなし）との接続は、ねじなしコネクタを使用する。
- ・管は 1m 未満とし、支持物から 0.3m 程度とする。（送風機等の図を参照）は除く。
- ・金属管を支持する方法は、支持物にクリップを使用する。なお、支持が困難な場合は、支持物にサドル止めを使用する。
- ・ボックスとの接続は、金属製可とう管用のねじなしコネクタ（可とう管用、ビニル被覆可とう管用）を使用する。



<https://www.sekouya.com>



e . 耐震支持

(1) 設置条件

- ・ 耐震安全吐の分類：一般
- ・ 水平震度 最上階（5階）
2階～4階
1階
- ・ 耐震支持 A種

(2) 支持材

- ・ 標準図「電力35」のA
- ・ 材料は、「建築設備耐震」に記載する。

年版) により算出して、施工図に

<https://www.sekouya.com>

6) 品質管理

a. 管理体制

品質管理責任者 監理技術者	
品質確認者 主任技術者	(電気工事株)

b. 管理方法

- (1) 監理技術者は、事前に主
 - (2) 作業前に、主任技術者が
がある場合は、併せて説明
 - (3) 施工中は、作業員による
 - (4) 一工程が修了したら、主
表の「管理値・管理基準」
 - (5) 上記確認後、管理技術者と
- により確認する。

受注者が作成しているチ:

を説明する。
明する。製品に添付されている施工要領
の施工管理」(平成 29 年版)の施工管理
かを確認する。
を「品質管理チェックシート」(別添 1)

(4) やめておく

7) 工事写真

a. 撮影者

- (1) 撮影は、工事担当者が行

b. 撮影箇所

- (1) 材料搬入時は、材料、規
- (2) 一連の作業工程が分かる
- (3) 打込配管、隠ぺい配管は
- (4) 撮影する箇所は、「営繕

受注者が作成した資料を添付
記載する。

する。
成 28 年版) による (別添 2)。
写真撮影要領を満していることを

https://www.sekouya.com